

声を届けて三十数年

今回は福祉しあわせセンターにて朗読ボランティア「のぎく」代表の平郡さん、会計の池本さん、次期代表の守田さん、次期会計の井上さん、メンバーの有吉さん、前田さん、村津さん、櫻井さんの8名の皆さんにお話しを伺いました。



▲左から守田さん、池本さん、平郡さん

活動は、いつ頃から始められたのですか。

民生委員女性部数人から始まり、その後会員も増えボランティアになりました。最初は、広報は昭和57年に結成されました。最初は、広報は一部の吹込みや社協だよりの発送の準備など手伝いながら、平成元年1月に朗読グループ「のぎく」を独立。結成から、かれこれ三十数年になります。

活動内容は。

平成13年から社会福祉協議会のボランティアとして、社協だよりや議会だより、広報はりまやその他の配布物をすべて吹き込んでいます。

録音方法は。

当初は、ピックアップして録音していましたが、リスナーさんから読みた

録音に要する時間は。

朝9時から夕方5時までやって2〜3日かかります。録音するまでに下調べをしたり、読む練習などもします。

インタビューを終えて

「視覚障がいの方の目の代わりをするだけです」とキッパリ答えられる爽やかさが印象的でした。共に住みよい播磨町を目指してがんばりましょう。

ご要望はありますか。

10年ぐらい前、CD切替えにあたり機器購入希望を出したけれどもかなわず、長谷川財団にボランティア資金助成を申請し、運よく助成を受けることができ、パソコン・スピーカー・インターフェイス各2セットを購入

後継者づくりは。

現在、メンバーは16名ですが、中には家族の介護や孫の世話とかで実際活動できるのは12、13名です。ひとり何力所も担当しなければならぬので、少なくとも20名ぐらいはほしいです。今年には社協だよりの一面に初級講座案内を掲載していただいたこともあったのか、10名の応募があり、現在受講中です。(後日談、その後9名がグループに参加されました)



▲左から櫻井さん、村津さん、井上さん、前田さん、有吉さん

CD採用は東播で一番

―聴きやすく、録音もしやすい―

録音する際の「苦労な
どお聞かせください。」

カセットテープからCDへの移行期の2年間は、2本立てで手間がかかり

大変でした。いつか来るデジタル化に向けて、メンバー全員でCDに入れる方法など機器の操作を勉強していたのでこの東播地域で一番に取り入れ



▲スタジオで録音中



▲会議室で録音中